

ホームスクーリング

Home Schooling.....

学校に代わる新たな選択肢

アメリカだけでなく、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドでも、子どもを学校ではなく親が家庭で教育するホームスクーリングが盛んになっている。それは、現在の学校批判のひとつの表れでもある。同時に、子どもを教育する新たな方法の提供でもある。

現在、アメリカの各州は一定の年齢の子どもの就学を義務づけているが、子どもを家庭で教えるホームスクूलを、さまざまな条件を付けて認めるようになっていく。その認め方は州により異なり、年々その法律はホームスクूलに有利な方向に変わっている。最も規定が緩い州では公立学校と同じ基本的科目を同じ時間量教えたことを証明するものを毎年提出すればよい。それに毎年の標準テストが加わる州もある。親の教授資格も重要

な要件である。ホームスクーリングを私立学校として認可する州もある。全米のホームスクーラーは1992年に37万5000人、93年から94年には45万人から80万人、現在は150万180万人といわれている。ニュージーランドで、ホームスクーリングは、親が選択できる子どもの公教育形態のひとつとして認められ約7000人が学び、ホームスクーラーには手当て金が支給される。

また、メイベリー(Mayberry, M.)らのアメリカ3州の調査では、ホームスクール教育者は白人、既婚、若い家族(30歳代)、高学歴、専門・管理職、中流階層、宗教的関与が高い、政治的には保守的な層に多いことが明らかになっている。

宗教的理由、学校批判、家族の絆の重視が主な理由

親はなぜ子どもをホームスクーリング

で育てたいと思ったのか。その親の価値観や信念を、イデオロギー派と教育学派の2つに分けることができる。イデオロギー派はホームスクーリングを始めた理由を2つ挙げる。ひとつは彼らは学校で教えられている内容に宗教的なことも含めて賛同できないということ、もうひとつは自分の子どもとの関係を強めたいと考えていることである。一方教育学派は、親が教育の専門家であったり、自分で教育書や子どもの発達に関する本を読み、子どもの教育に関心の高い層で、学校教育の官僚制や効率の悪さに批判的である。子どもの内的な興味や創造性を重視し、自然に学ぶべきだと考え、子どもが自分の課題を持ち、家庭や周りの地域社会の資源を使いながら、自分のペースで学ぶべきだと考えている。

ホームスクूलにおける教育方法は、さまざまである。学校のように1日の時

間割を決めて、時間ごとに科目や活動を変えていく方法もある。このように短い時間で区切らず、好きなことを好きなだけやる場合もある。集団学習ではなく、一対一のインフォーマルな教育方法が、子どもの特性を生かす形で行われるのが特徴である。母親が教育を担当し、自分

の子だけを教えるケースが多い。親は自分の受けた伝統的な教育方法で教えることが多いが、自由な場面も求め、地域の子ともや大人と交わる機会を多くつくる。他のホームスクूल、教会、学校、図書館、教材組織といった地域社会の資源を利用することも多い。

ホームスクールの教育効果を危惧する声もある。教育の専門家でない親に教えられて学力はつくのか、遊ぶ友達もなく

て社会性は発達するのかといったことが心配される。これに関して、伝統的な学校の生徒と比較して学力も社会性も問題がないという調査結果が多く出ている。

このアメリカのホームスクूलが日本の教育にどのような示唆を与えてくれるのであるか。第1に、教育における親の役割について再考を促すものになる。第2に教師という専門家が行う教育に学校が唯一絶対と思っていた学校化された思想を脱構築し揺さぶるものになる。第

3に不登校問題にひとつの見方を提供する。(武内清)

▼関連図書

『ホームスクールの時代』M・メイベリー他／秦明夫他訳(東信堂) すぐれた理論と実証研究の翻訳
『ホームエデュケーションのすすめ』東京シュレ編(教育史料出版会) 日本におけるホームエデュケーションの紹介
『新・地域社会学校論』明石要一編著(ぎょうせい) アメリカのホームスクーリングの現状と日本の教育への示唆、地域教育の中での位置づけ

関連用語

■ホームスクーラーの学力、社会性
ホームスクーラーのSAT(大学進学適性テスト)の平均点は1083点で、全受験者の平均1016点を上回り、学力上問題のないことを、米ウォールストリート紙が伝えている。ACT(進学標準テスト)でも同様の結果が出ている。ホームスクーラーが学校のクラブ活動や地域のさまざまな活動に参加し、社会性テストでも問題はないという報告がいくつもある。

■ホームスクールの教材 ホームスクーラー向けの教材は、数多くあるホームスクール支援団体が充実したものを発行している。ホームスクールのマニュアル本も多く出版され、インターネットの普及は、ホームスクूलをやりやすいものになっている。

■学校選択 アメリカではチャータースクールなど親や子どもが学校を選択できる制度が導入されている。教育選択のひとつとしてホームスクूलも位置づけられる。しかし、これらは親の階層差の拡大という問題もあり、親に経済的、時間的余裕のない層にホームスクूलが実施されると、子どもは放任され学力も社会性も育たない。また、社会性のない親に育てられ、子どもの人権が無視される危険がないわけではない。

■学校神話 日本では、学校は神聖な場所であり、皆が行かなくてはならない所という「学校神話」が一般的である。不登校で悩む子の背後には学校化の意識がある。ホームスクूलがアメリカのように法律的にも認められれば、不登校問題を悪化させている「学校神話」はかなり崩れるであろう。